



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年にひとりの日本人がインドシナ難民救援に参加したことを契機として誕生しました。以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 55 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

- ❑ 世界里親会からのお知らせ
子どもたちにクリスマスカードを送ってください!
 子どもたちは里親の皆様からのクリスマスのお便りを楽しみにしています。ぜひカードをお送りください。
1. 里子の ID 番号を必ずお書添えください。
 2. 里親の皆様のお名前にはフリガナを付けてください。
 3. カードは 11 月 15 日(月)までに世界里親会 (大阪) までお送りください。期日を過ぎますとクリスマスまでに子どもたちにカードが届かない場合があります。
 4. 里子宛の現金や品物を送ることはお控えください (現地では皆様のご支援金で里子全員に平等にプレゼントが配られます)。
- ★お問い合わせ: 世界里親会 (大阪)

- ❑ 韓流タレントのチャリティ企画
 当機構は、ハンガーゼロ・チャリティイベントとして 12 月 2～8 日、韓国のテレビドラマで活躍中のチョ・ミンギ氏による「チョ・ミンギ写真展」を大阪・ギャラリー御堂筋で、また韓国人歌手 Sohyang のコンサートを 12 月 4 日、八尾市・プリズム大ホールにて開催します。問い合わせは大阪事務所まで。

- ❑ ワトコンサートに 4268 人
 9 月 10～15 日まで名古屋、岐阜、豊橋、浜松で開催されましたウガンダの孤児たちによるコンサートには、計 4268 人が来会、大盛況となりました。また学校訪問も行われ、子どもたちの希望をもって生きる姿を通して、素晴らしい交流の輪が広がりました。

ハンガー・ゼロ・サポーター大募集中! 今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。



このほど平成 22 年日本民間放送連盟賞 “NAB Awards 2010” において、当機構ハイチ大地震・緊急支援活動で協力した「パン・アキモト」(栃木県那須塩原市)の秋元義彦さんの奮闘ぶりを取材したTBS「夢の扉」(今年 4 月全国放映)が、「特別表彰部門・青少年向け番組 最優秀」に輝きました。同番組では、阪神・淡路大震災での支援活動がきっかけで世界初の「パンの缶詰」(1～3 年保存可能)開発までの道程や同製品による食糧支援活動などを紹介。また、今年 3 月当機構スタッフと大地震に見舞われたハイチを訪れ、「パンの缶詰」を子どもたちに手渡している様子も紹介されています。秋元義彦さんは、当機構の「ハンガーゼロ特別大使」であり、これまでも世界各地の大災害被災地に「パンの缶詰」を届ける食糧支援を続けています。同社の取り組みに関心のある方は、ウェブサイト http://www.nasuinfo.or.jp/FreeSpace/aki_pan/ をご覧下さい。



- ❑ ハンガー・ゼロ・サポーターとして協力します。
 毎月 () 口、協力します。(1 口 1,000 円)
- ❑ JIFH 会員になり毎月定期的に財的協力をします。
 毎月 () 口、協力します。(1 口 500 円)
- ❑ 「世界里親会」に協力します。
 説明書、里親会入会申込書を送ってください。
- ❑ 海外派遣スタッフを支援します。
 毎月 () 円 () スタッフ指定
- ❑ 海外派遣スタッフを支える会の会員になり、協力します。毎月 () 口 (1 口 1,000 円)
- ❑ 郵便自動引落の申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ 住所: _____

_____ (電話) _____

▼申込日: _____ 年 _____ 月 _____ 日▼

FAX・072-920-2155

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛 (大阪市など)、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さいます。ありがとうございます!

■発行者	岩橋竜介	大阪	〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1 TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
■発行所	一般財団法人 日本国際飢餓対策機構	東京	〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
	Web サイトアドレス http://www.jifh.org/ e メールアドレス general@jifh.org	愛知	〒466-0064 名古屋市中区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
■郵便振替	00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構 ※支援金は随時受け付けております。	広島	〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号 TEL (082)831-1214 FAX (082)877-3961
		沖縄	〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号 TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540



携帯サイト



飢餓対策 News

2010
No.243
10



世界には、飢えに苦しみ、貧困と闘いながら暮らしている人々が何億人と数え切れない。この日本にも大勢います。毎年 3 万人以上の人々が自殺しています。霊的、精神的な飢えと貧困のためではないかと言われています。世界の飢餓や貧困も政治や霊的、精神的問題も含まれていて、全人的問題として考えなければならないでしょう。

主イエス・キリストは、聖書の中で「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによると書いてある。」と教えました。

飢餓救済問題と一口に云いますが、軽々に扱うことはできない程、その原因は多岐複雑です。地理、文化、宗教、政治、経済、科学、その上、災害も戦争も大きな原因です。

しかし、世界にはとてつもない数の人々が、飢えていることは現実問題です。1 分間のうちに 17 人の人が飢えのために今も死んでいるのです。そのうち 12 人は幼い子どもです。

私たちが、何かをしなくてよいのでしょうか。私たちは何もしないでいられるのでしょうか。仮に、死んで行く子どもを自分の腕に抱いているとしたら、私たちは何をのでしょうか。そんな気持ちで、私はこの手紙を書いています。

飢餓は、この上なく緊急事態ですが、また、一方では恒常的事態でもあります。従って、救済の働きは絶えず推進していかなければなりません。そして、広く、行動していかなければ

なりません。霊的に肉体的に飢えている人々の必要に応じていくために、充ちた福音的働きをしなければならぬと確信しています。「福音を伝えるだけでは、それは半分の仕事だ。生活的支援を残してでは不十分だ」と語った人がいました。

日本国際飢餓対策機構は正しく充ちた福音的働きを目指しています。そのため日本全国に「機構賛助会」を設立中です。当機構の支援、保護推進のためにご協力くださる方は事務所までご連絡ください。

FH 全国賛助会会長 堀内 顕

1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。



ニジェールから感謝の便り 地元の組織を通して食糧支援

当機構では、食糧不足に苦しむニジェールの人々のために、協力団体バルナバス・ファンドを通じて食糧の支援を行っています。バルナバス・ファンドは、2005年に起こった食糧危機の際に、干ばつと飢餓に苦しむ孤立した地域のコミュニティに、食糧支援を行いました。2010年度は、首都から800キロ離れたマラディやザンデル、ディッファなどの地域で食糧を配りました。以下は現地からの報告です。

食糧は卸売り業者から大量に買いつけ、800km以上離れた地域にトラックで運んで教会の倉庫に搬

入しました。そして、その日の内に地域の人々が教会に集まって、それぞれ食糧を受け取りました。配給の際には、どの家族に最も必要があるかを知っている教会の牧師や長老が立ち会いました。今回は、各家庭に50kgの米袋とアワまたはとうもろこし100kgの袋が配給されました。これは典型的な家庭である6人家族の7～8ヶ月分の基本的な食糧となります。プロジェクトの実行チームは、食糧を受け取った家族の詳細を記録、写真を添えてバルナバス・ファンドに報告しました。この食糧支援は、現地実行チームの熱意と献身なしには不可能な

ことでした。彼らは、数日かけて何百kmも悪路を走って食糧を運搬、飢える人々にこの食糧を届けるために時間と労力を捧げたのです。

食糧援助に感謝して

■ロンボ・タンダン牧師

全ての村人と教会のメンバーに代わって、この困難の中にある私たちを覚えてご支援くださった皆様に、心から感謝申し上げます。このコミュニティにおいてお米を食べることができるのは、本当に贅沢なことなのです。皆様の愛の行いによって私たちは生きながらえることができました。主の祝福が豊かに皆様の上にありますように。

ニジェールにスタッフ派遣

当機構は9月16日、岩橋竜介理事長と清家弘久をニジェールに派遣しました。ニジェールでは現状調査とともに、現地パートナー団体と進めている食糧支援や子どものためのプログラムなどを視察しました。現地調査の報告は、次号でお知らせする予定です。またハンガーゼロ専用ウェブサイト <http://www.jifh.org/hungerzero/> もご覧下さい。



パンの缶詰を受け取り喜ぶ子（清家撮影）

… 少年 ア ブ デ ィ …

私が日本国際飢餓対策機構から初めて派遣されたのは、1993年ソマリアでした。ソマリアは、アフリカ大陸の角と呼ばれる所に位置し、内戦によって人口が激減し、赴任した当時既に無政府状態でした。私の働いていた所は、ソマリアの首都モガディシュから南へ350kmのサコという、人口5万人余りの村でした。赤土の大地に棘のある低木がまばらに生えるサバンナは荒涼としていて、川の周辺だけ木々が繁茂し緑豊かでした。

サコに住む人々の暮らしは文明の利器から程遠く、茅葺きの屋根に細木を組み立てそれに赤土を塗った円錐形の家に住んでいました。人々は目的地まで何十キロも歩き、驢馬が水や農作物などを運んでいました。

今回は、サコで出会った少年をご紹介します。少年の名はアブディ、彼は当時11歳、両親と彼の他に弟と妹たちの7人家族、最年少の弟は生後3～4ヶ月でした。

数えるほどの家財道具

私が初めてアブディに会ったのは、彼の父が重篤のため国連のヘリコプターで病院へ移送された時でした。育児に忙しい母に代わってアブディが父に付き添ったのでした。数週間後、アブディ親子はサコへ戻りましたが、まもなく父は亡くなりました。

サコに住む殆どの人たちは貧

しい生活でしたが、アブディの家庭は更に貧しいものでした。小さな家屋に、調理用の鍋と2～3枚の食器、眠る際に使われる平たくしたダンボール箱、それが家財道具の全てでした。

当時私共の事務所では、掃除や洗濯、調理などをするソマリ

した彼は、学ぶことが楽しく、日本の位置を私に尋ねては、「将来、日本へ行くから…」などと話すのでした。

満面の笑顔で

ある日、アブディは学校で配給されたビスケット3枚を持って、事務所へ戻ってきました。このビスケットは、ユニセフが製造したもので栄養失調の子どもたちに用いられ、栄養価が高く甘味の少ないものでした。ビスケットなど口にすることのないソマリアの子どもたちにとって、特別な日でした。満面に笑みを浮かべながら私の所へやって来たアブディは、持っていた3枚の内の1枚を「緑に…」と差し出したのでした。

健気に生きる少年アブディ。私は、アブディのように逆境にありながら純粋さを失わない少年少女たちに出会ってきました。子どもが年齢に応じた無邪気な時間を過ごすことが出来るよう、貧困の撲滅や環境を整えることは言うまでもありません。しかしながらそれとは異なった視点で、彼らの品性は人に与えられた天来の美のように思うのです。

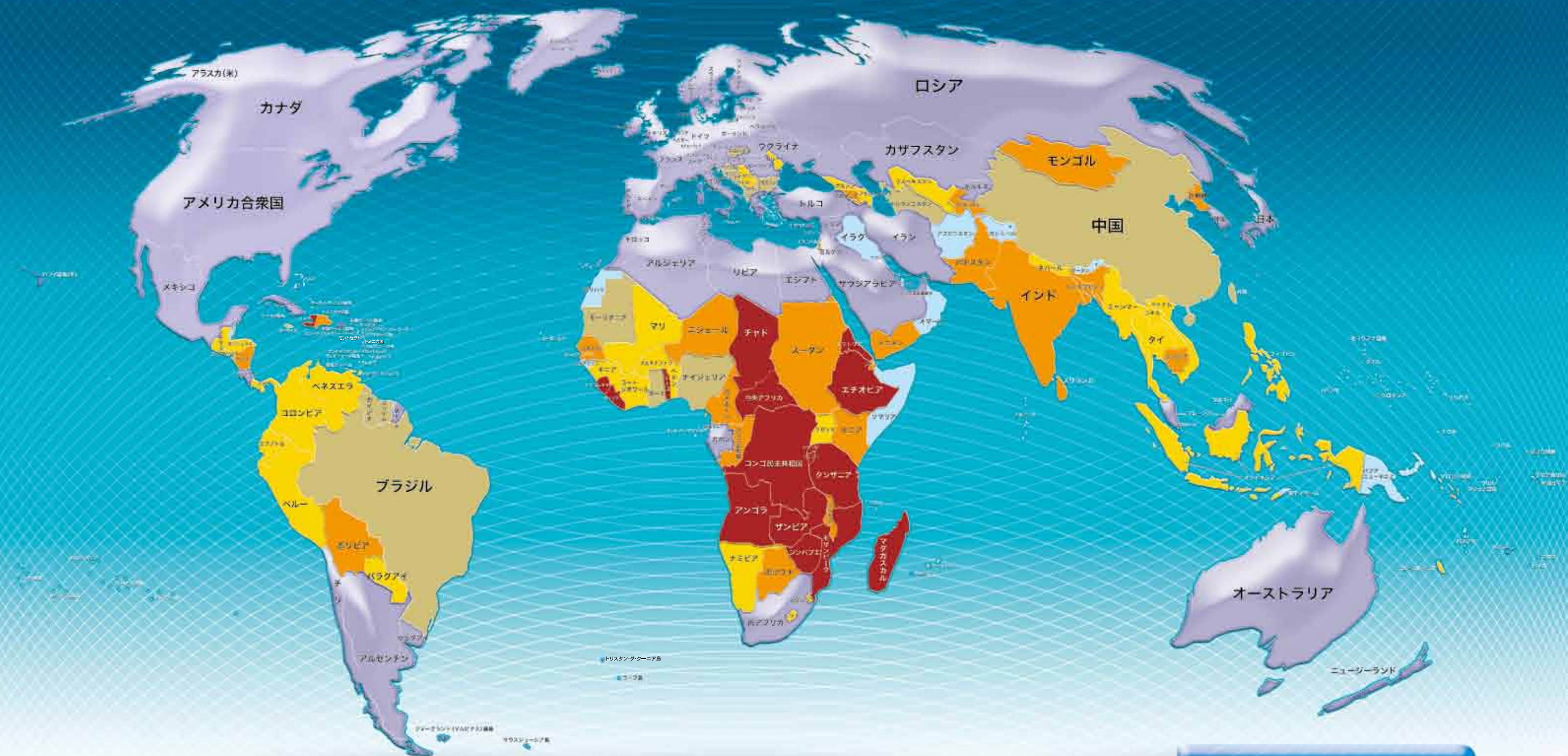


竹内 緑
1993年以来、ソマリア、旧ザイール、アンゴラ、エチオピアで緊急支援に従事。2006年9月からルワンダのカモニ郡でトラウマ被害者支援に取り組む。



住民への食糧配布の前に祈りの時をもつ

世界の飢餓状況



この地図の表示は、いかなる国、県、都市、地域の境界線および法的な境界についても、これらに関するWFPの意見を示すものではありません。
 点線はインドとパキスタンのカシミール東部境界線をおおまかに示しています。
 カシミールの最終的地位については両国はまた合意を達していません。
 * インドと中国の国境を主として示しています。
 参考資料: 「世界の統計2009」(国連)



分類	1	2	3	4	5	データ不足
栄養不足の人口の割合	<5%	5-9%	10-19%	20-34%	≥35%	
栄養不足度	極端に低い	非常に低い	やや低い	やや高い	非常に高い	

出典: 世界の食糧事情不安の現状2008 <国際連合食糧農業機関 (FAO)>
 FAO統計データベース

© 2009 United Nations World Food Programme

世界では6秒に1人、子どもが栄養不足で死んでいます。

これは**ハンガーマップ**といって、世界の飢餓状況を、栄養不足人口の割合によって国ごとに5段階で色分けして表わしたものです。赤色に分類された国々は、飢餓人口の割合が最も高く、全人口の35パーセント以上の人々が栄養不足です。飢餓に苦しむ人々の98%は、開発途上国に住んでいます。開発途上国の経済成長（特にアジア）と食糧価格下落によって、2010年の飢餓人口は9.6%減少し、**9億2500万人**になると予想されていますが、依然として高水準で、アフリカでは**3人に1人**が栄養不足です。栄養不足人口が多いのは、アジア・太平洋地域で5億7800万人。栄養不足人口の割合が最も高いのは、サハラ以南地域で2億3900万人。

WFP 国連世界食糧計画
Hunger Zero Africa
 私から始める、世界が変わる
 詳しくは専用サイトに <http://www.jifh.org/hungerzero/>

世界里親会 活動地のこども



子どもと親への励まし

世界里親会の里子たちは、里親さんに経済的にまた精神的に支えていただきながら学校に通っています。しかし、家の仕事が多くて勉強する時間がない、先生が少なすぎる、学校が遠いなど子どもたちの学習意欲をさまたげる数々の問題があり、卒業するのは容易ではありません。

そのような状況にある子どもたちや保護者を、現地スタッフはどのように励ましているのか尋ねました。

Q.各国世界里親会に質問

スタッフの皆さんは、子どもたちの学習意欲をどのように励ましていますか？

A.各国世界里親会の回答



ウガンダ

学校の先生方と常に連絡を取りあい、勉強につまずいている子どもたちにはカウンセリングを行って、どこに問題があるのか見つけます。その結果を担任に報告し、特に注意を払ってもらおうよう要請します。

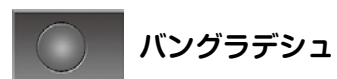
子どもと保護者、先生の連携プレイで子どもの学習を助けるようにしています。



カンボジア

学んだことをすぐに忘れてしまう子どもには、スタッフが出かけて行ってその日に学んだことを復習させます。地域全体の生活レベルの向上が子どもたちの学習環境の改善につながると

考え、里子の親たちに対して、家庭向けの貯蓄プログラムや農業技術指導も行っています。



バングラデシュ

個人ののための復習プログラムは特には行っていませんが、定期的に里子の家庭を訪問して、きちんと通学するように励ましています。



フィリピン

学校の成績が思わしくない生徒のために、補習を行っています。また根本的な問題解決のために、保護者を交えてカウンセリングをしています。



ボリビア

特に遠方から通学しなければならない生徒のためには、寄宿舎を用意しています。この寄宿舎では、食事の提供はもちろんのこと、図書室やコンピューター室も備えて子どもたちの勉強を支えています。

カンボジアのスタッフ（中央）と子どもたち



★・・・★・・・★・・・★

世界里親会の現地スタッフたちは、子どもたちが困難を乗り越えて将来のために全力を尽くして勉強できるよう、子どもと保護者を励ますと同時に、彼らが愛されていること、また里親さんも彼らを精一杯支えておられることを伝えています。



バングラデシュの授業風景

今回は、支えてくださっている里親さんの思いも分かち合いたいと願っています。

里子を持つことで、励まされたこと、うれしかったこと、あるいはこうして欲しいと思われることなどどんなことでも結構です。**はがき、メールあるいは電話で是非里親部にお知らせください。**お待ちしております！

里親募集 世界里親会では、貧困と闘う子どもとその家族を支援して下さる里親を求めています。カンボジアとウガンダでは支援を待つ約100名の子どもがいます。ぜひ里親になってください。

お試しくださいテイクアウトボックス

日本国際飢餓対策機構のパートナー『株式会社キングダムビジネス』のスタッフと愛知事務所で、7ヶ月にわたって開催されてきたミーティング。名古屋の学生さんや主婦の方々も交えて、熱い議論を重ねて出来上がったのがこの「テイクアウトボックス」です！

食べ物を大切に

ご家族で外食の際、注文しすぎたりお子さんが食べ残したりして、「もったいない～」と思いつつもお店を出る、あるいは同窓会や結婚式、パーティーなどでほとんど食べられずにレストランを後にする、こんな経験をした人は多いはず。



使ってみました

「注文し過ぎた時や、持ち寄りの食事会などで話に夢中になって食べる時間がなくなった時に使っています。」
「結婚式の披露宴で緊張してしまい、次から次と出てくる料理を食べられなかった時、もった

いないから係りの人に頼んで入れてもらいました。」
またこんな利用法も。
「塾に行く子どもに軽食を入れて持たせています。」

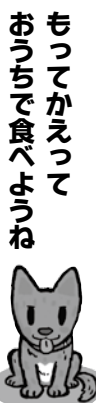
アイデア募集します

このテイクアウトボックスを使って、食べ物を大切にすることを子どもたちや周りの人に伝えることができます。同時に、食べる物も十分でない9億2500万人（2010年9月FAO発表）の人々に、思いを馳せて頂ければ幸いです。
ぜひ使い方のアイデアをご紹介下さい。繰返して使用できるこのテイクアウトボックスは、1ヶ900円（送料別途）です。

お問合せ、お申込みは 株キングダムビジネス

〒581-0032
大阪府八尾市弓削町3-74-1
日本国際飢餓対策機構内
TEL：072-940-6814
FAX：072-940-6824
Web: <http://www.kbwin-win.org/>
受付時間：9：30～16：00
（休：日曜日）

好評につき
申込続々と



もってかえって
おうちで食べようね